渉にタッチしていない）が、金日成の党内掌握は強まったとみた。彭を含めた中国のイメージも平壌では悪かった。

こうした中、東欧反乱がおき、中ソは北朝鮮より大きな共産党権力崩壊の危機に対応せざるを得なくなった。こうして金日成はかろうじて生き延びた。さらにはモスクワで1957年フルシチョフ追い落とし工作の反党事件が失敗、かわってフルシチョフはモロトフからブルガーニンまで幹部会員を反党分子として追放、翌年フルシチョフは首相を兼務、この段階で金日成の「個人崇拝」を批判するソ連側の理論的根拠も、平壌での影響力同様に奪われるのである。

## 第2セッション　「大衆・集団・国家」

### 現代中国の民間書簡の特徴とその研究方法についての初歩的検討

張　楽天（復旦大学教授）

一、現代中国の社会生活に関する資料の収集

「解放」以後、中国農村は農業集団化の道を歩み、数億の農民の生産と分配にいずれも詳細な記録が必要となった。他方では、中国でひとたび政治運動が展開されるごとに、調査や自白に関する大量の文字資料が残された。そのため中国は民間資料を最も多く生み出した国家となった。しかし、さまざまな原因によって、民衆の実践を真に反映した社会生活に関する資料は収集されてこず、学術研究に利用されることもなかった。

改革開放以来、人民公社の解体、経済社会の急速な発展にしたがって、大量の社会生活資料が廃棄され、製紙工場に送られた。

私は1988年から農村資料の収集を開始し、主に浙北の聯民村とその周辺地区の資料を集中的に収集してきた。現在把握している情報によれば、私が収集している浙北の聯民村の資料は一つの村に関する最も完全・全面的・豊富な資料である。すでに『張楽天聯民村データベース』を作成し、社会科学文献出版社から出版した。

2010年、私は復旦大学上層部に「資料救出」という課題を提出し、全国規模で「民間に流出した全ての手書き資料と非公式資料」を収集することを提案した。この提案は大学上層部の大きな支持を得た。2011年、復旦大学は正式に復旦発展研究院現代中国社会生活資料センターを成立させた。

資料収集は困難な作業である。私たちはさまざまなルートを通じた社会からの資料収集を模索し、社会における資料の種類や分布状況を徐々に明らかにした。数年間の努力を経て、復旦発展研究院現代中国社会生活資料センターは膨大な量の社会生活資料を収集した。

二、復旦発展研究院現代中国社会生活資料センターが収集した資料の紹介

いわゆる「社会生活資料」には、末端政府、企業・事業団体その他の「単位」〔機関〕が作成した資料のうち正式な檔案システムに収められず社会に流出したものや、家庭や個人の書いた資料が含まれる。これらの資料は非常に具体的で、細かい事柄に関する記載に満ち、人々の日常の行動に直接関わっている。しかも90％以上が手書きで、中国人の社会生活の実践を理解するための得難い資料である。

この6年間、私たちが収集してきたものには上海、江蘇、安徽、江西、湖北、湖南、四川などの省・市の

20 万件近い社会生活に関わる電子化資料、文書資料が含まれ、長江流域の社会生活に関する資料を中心とする所蔵資料システムを暫定的に構築した。この他に、31 万通を超える民間の手書きの書簡や、3,200 冊以上の日記・業務ノートも収集した。以下ではそれらの資料の状況を簡単に紹介する。

電子化資料：

1、十数の生産大隊の詳細で完全な会計・統計資料。さらに貴重なのは、5 つの生産小隊の会計資料で、農民一人一人の毎日の活動の手配、数千の家庭の数十年間の経済的収入と分配について詳細に記録している。

2、電子化による分析の潜在的可能性を持つ数十種の貴重な資料。たとえば某市の 1950 年代の完全な労働組合員登記表、江西の某地区の 1950 年代後半の幹部登記の電子データなど。

文書資料：

1、末端政府の文書資料。約 10 万件。

2、企業・事業団体などの単位の文書資料。約 9 万件。

3、労働組合、共産主義青年団など民衆組織の文書資料。約 1 万件。

4、会議記録。

私たちは数十種の継続的な会議記録を収集した。企業・事業団体などの会議記録、生産大隊の会議記録、造反派の組織の会議記録、労働組合の会議記録などが含まれる。

個人や家庭の資料：

1、個人書簡。31 万通以上。

2、個人の日記・業務ノート。3,200 冊以上。

## 集団化時代の農村末端檔案と山西社会の研究

行　龍（山西大学副学長）・馬　維強（山西大学副教授）

現代中国史研究の実践においては「下から上へ」と「上から下へ」の二つのルートを結合させなければならない。これは歴史研究の理論と方法、そして資料の発掘と利用の双方に対する挑戦であり、中国現代社会史研究は全力で「資料革命」を展開する必要がある。

一、「孤軍奮闘」から「集団調査」へ――檔案の収集

1、最初は資料の収集は「孤軍奮闘」が中心だった。多くは山西大学中国社会史研究センターの人員が自分の故郷から着手し、熟知した環境と有力な人脈という基礎の上に調査・収集・整理を行った。

2、個別調査の他に、大規模・組織的な集団での資料収集も展開した。村荘を単位としたものから、県・市の区域に拡大し、全面的な「絨毯式」収集を進めた。

3、農村檔案は複雑さと多様性を兼ね備えた、雑然とした「資料群」であり、収集した地点は南から北まで山西省の全域に及ぶ。内容的には村荘や郷鎮の他に、工場・水利・営林場などの関連資料を含む。

二、本来の豊かな姿の提示――檔案の整理と出版

1、1,000 万件に上る檔案の中から 20 の村荘を選んだ。選択の基準は、時間的に完全に連続しており、内容的に系統だっていること。

2、資料整理は順序立てて行った。まず村落を単位として檔案の分類を行い、次に目録の編集作業を行い、電子ファイルを作成し、同時に檔案ごとに整理番号を付した。最後が収蔵で、すでに整理して作成した目録